

## 部門費計算 第7問 問題

次の資料にもとづいて、直接配賦法により部門費の第2次集計を行い、以下の各問いに答えなさい。

(資料)

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
第1次集計後 部 門 費	3,500,000円	1,508,000円	960,000円	510,000円	440,000円	82,000円

配賦基準	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
従業員数	93人	30人	30人	12人	18人	3人
修繕時間	960時間	480時間	400時間	80時間	—	—
動力提供量	29,700kw	7,000kw	10,000kw	3,800kw	6,000kw	2,900kw

問1 第2次集計後の各部門費の金額を答えなさい。

問2 第2次集計(補助部門費の配賦)に必要な仕訳を示しなさい。ただし、使用する勘定科目は、切削部、組立部、動力部、修繕部および工場事務部とする。

問1

(単位:円)

	合 計	切 削 部	組 立 部	動 力 部	修 繕 部	工場事務部
第2次集計後 部 門 費						

問2

借方科目	金 額	貸方科目	金 額

# 部門費計算 第7問 模範解答

問1

(単位：円)

	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
第2次集計後 部門費	3,500,000	1,999,000	1,501,000	0	0	0

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額
切削部	491,000	動力部	510,000
組立部	541,000	修繕部	440,000
		工場事務部	82,000

## 【解説】

問1 直接配賦法により、第1次集計後の補助部門費を製造部門にのみ配賦する。

工場事務部；配賦基準は従業員数

$$\text{切削部} ; \frac{82,000\text{円}}{30\text{人}+30\text{人}} \times 30\text{人} = 41,000\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{82,000\text{円}}{30\text{人}+30\text{人}} \times 30\text{人} = 41,000\text{円}$$

修繕部；配賦基準は修繕時間

$$\text{切削部} ; \frac{440,000\text{円}}{480\text{h}+400\text{h}} \times 480\text{h} = 240,000\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{440,000\text{円}}{480\text{h}+400\text{h}} \times 400\text{h} = 200,000\text{円}$$

動力部；配賦基準は動力提供量

$$\text{切削部} ; \frac{510,000\text{円}}{7,000\text{kw}+10,000\text{kw}} \times 7,000\text{kw} = 210,000\text{円} \quad \text{組立部} ; \frac{510,000\text{円}}{7,000\text{kw}+10,000\text{kw}} \times 10,000\text{kw} = 300,000\text{円}$$

部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		切削部	組立部	動力部	修繕部	工場事務部
第1次集計後部門費	3,500,000	1,508,000	960,000	510,000	440,000	82,000
工場事務部門費	82,000	41,000	41,000			
修繕部門費	440,000	240,000	200,000			
動力部門費	510,000	210,000	300,000			
製造部門費	3,500,000	1,999,000	1,501,000			

問2 仕訳の借方の金額は、次のとおりである。

$$\text{切削部} ; 41,000\text{円} + 240,000\text{円} + 210,000\text{円} = 491,000\text{円}$$

$$\text{組立部} ; 41,000\text{円} + 200,000\text{円} + 300,000\text{円} = 541,000\text{円}$$